

ほっこり ウィークリー

(毎週金曜日発行)

59号
2021
7.16

京都府立植物園

〒606-0823 京都市左京区下鴨半木町
TEL 075-701-0141 FAX 075-701-0142
http://www.pref.kyoto.jp/plant/

園内で野鳥の死骸を発見されましたら、鳥インフルエンザの疑いもありますので絶対に触らずに職員や各門へお知らせください。



行事予定と今週ぜひ観ていただきたい植物の情報をお届けします！

※休園日は、年末年始(12/28~1/4)だけです。

※ 京都府立植物園公式ツイッターアカウント始めました！見頃の植物情報を中心につぶやいています。



夏の早朝開園

○7月22日(木祝)~8月15日(日)

* 7:30から開園します

○朝顔展(7/30~8/3)開催中は

* 7:00から開園します

★涼しい早朝の植物園をお楽しみください!!

夏休みクラフトアート教室

○日程:7月21日(水)、22日(木祝)

【午前の部】10:00~12:00

【午後の部】13:30~15:30

○場所:植物園会館1階展示室

○内容:「モザイクタイル」(ミニ植木鉢)

「ミニチュアで作る緑の窓辺」

「シャドーボックスで飾る壁飾り」

「フォークアート」「花模様の逆さ独楽(こま)」

「アロマワックスサシェ」

「カメラアで飾る花柄ウエットティッシュケース」

○申込み:当日受付(小学生以上)

※詳しくは、ホームページを確認してください。



ホームページ

第30回 食虫植物展

○期間:7月22日(木祝)~8月9日(月休)

○場所:観覧温室(特別展示室)

○内容:ウツボカズラ、サラセニアなど100種類150鉢を展示(販売:22日13:00~、23日~25日)

◆7/25(日)食虫植物展 関連講演会

植物園会館2階研修室 13:30~15:00(受付13:00~)

「新しい食虫植物の病害虫」 *定員:先着60名

講師:橋本正光氏

◆食虫植物観察会(小学生以下対象)

○期間:7月26日(月)~8月9日(月休)

11:00~11:30

○場所:観覧温室(特別展示室)

○内容:小学生以下を対象とした食虫植物の観察会

第61回 朝顔展

○期間:7月30日(金)~8月3日(火) 7:00~12:00

○場所:植物展示場

○内容:毎日鉢の入れ替えを行い、延べ約1000鉢を展示

◆アサガオ観察会

○期間:7月31日(土) 9:00~10:00

○場所:植物展示場

○内容:植物園職員による解説と観察

○定員:当日先着50名

夏の子ども写生大会・写生コンクール絵画展

○期間:7月26日(月)~8月1日(日)

○場所:植物園会館1階展示室

○内容:7月25日に行った、夏の子ども写生大会・写生コンクールの作品を展示

夏まゆまろラジオ体操

○期間:7月30日(金)~8月1日(日) 7:45~8:10

○場所:大芝生地(雨天:植物園会館2階多目的室)

○内容:まゆまろとラジオ体操をしよう!

参加者には、まゆまろグッズをプレゼント

「水曜ミニガイド」 植物園認定が 仆がご案内!

※当面の間 水曜ミニガイドは中止させていただきます。

「副園長のほっこりガイド」

7月18日(日) 何処を歩くかはお楽しみ!

植物園会館前集合:午後2時スタート!

「土曜ミニミニガイド」 技術課職員が植物解説!

毎週土曜日は...

植物園会館前集合:午後1時スタート!

「植物園ガイド」が植物案内!

~見どころ案内・魅力解説・楽しさ倍増!~

- ① 7名以上のグループや団体で来園される方を対象
- ② 申込は希望日の10日前までに。(要相談)
- ③ ガイドは1時間程度。(無料)

* 申込先:京都府立植物園 TEL 075-701-0141

植物園芸相談

■ 毎週 日曜日 午前9時~正午、午後1時~午後4時

■ 電話075-701-0141



スマホdeガイド

QRコードをスマホで読み込み、「位置情報を利用する」に設定!

京都府立大学との共同により、スマホを使って園内の自分の位置が確認できる『スマホdeガイド』を作成! ‘おすすめ樹木めぐり’ ‘おすすめエリアガイド’などをスマホで確認し、植物観察!



※年間パスポート好評発売中

・1年間、何度でもご利用いただけるお得なチケットです!

大人1000円 高校生750円

・入園門でご購入いただけますので是非お買い求めください。

※温室観覧料は別途必要となります。

植物園HP!



今週の「探して！」

2021. 7. 16

59号

⑫ チャポディア・スプレデンス

アカネ科。メキシコ原産。赤紫色のがく片から黄色の花弁が下向きに突出。花は四角形の筒状で先端は4裂して反り返り、黄色から赤味を帯びた橙黄色に変化する。1972年に発見された比較的新しい種類。当園で2013年に国内初開花。

⑪ センペルセコイア

スギ科。北アメリカ西部原産。高さ100m以上にもなる世界有数の大高木で当園でも最も高い木である。昭和37年(1962)に約2mのものを植栽し、現在では約40mに成長している。厚さ30cmに及ぶ樹皮は山火事の際にも木の内部を守る。

⑩ スタンホペア・チグリナ

ラン科。メキシコ原産。芳香があり、花粉媒介者であるシタバチ類の雄だけを誘き寄せる芳香物質を分泌する。この物質は種ごとに組成が異なっているため、誘引されるシタバチ類も種ごとに決まっており、種間の交雑を防いでいる。

⑨ ネコノヒゲ

シソ科。インドやマレーシアに自生。花から伸びた雄しべが、猫のひげのように見えることから名が付いた。現地でも同様にマレー語で「猫のひげ」に当たる「クミスクチン」と呼ばれ、古くから薬草として重宝されている。沖縄では三大薬草の一つ。

① ムクゲ

アオイ科。中国やインドなどに自生。日本へは平安時代初期には渡来していたと考えられる。韓国では国花でもあり「無窮花(ムグンファ)」と呼ばれている。花の少ない夏の間に咲いているように見えるが、多くの花は一日で散る一日花。

② ヒマワリ

キク科。北アメリカ原産。和名「ヒマワリ(向日葵)」は、太陽の動きに合わせて花がそちらを向くことに由来しているが、実際は生育が盛んな若い時期だけで、花が咲いてからは動かない。種の配列は規則正しく、フィボナッチ数列の代表例。

③ ヒオウギ

アヤメ科。本州・四国・九州の山野の草地や海岸に自生。扇型に開いた葉が、宮廷人の持つ檜扇(ひおうぎ)に似ていることが和名の由来。京都では、古くからこの花が悪霊退散に用いられたことから、祇園祭には「祭花」として欠かせない。

④ ハス

ハス科。インド、中国、日本などに自生。花は日の出から咲き始め、昼頃には閉じてしまう。この開閉を約4日間繰り返した後、花びらが散る。和名の「ハス」は、花が散った後にできる果托(かたく)が蜂の巣に似ていることに由来。

⑤ チュウキンレン

バショウ科。中国やベトナムなどに分布。漢字では「地湧金蓮」と書き、外観が地面から金色のハスの花が湧き出したように見えることが名前の由来。また、見た目がバナナにも似ていることから、英名は「チャイニーズ・イエロー・バナナ」。

⑥ オウゴンオニユリ

ユリ科。オニユリの変種で、対馬にのみ自生。個体によってかなり変異がある。乱獲のため野生状態ではほとんど存在せず、現在、保存育成が有志の方々の手で行われている。ムカゴが葉の付け根にでき増殖は非常に容易。

⑧ ルドベキア

キク科。原種は北米に分布。別名マツカサギクと呼ばれ、花が終わると花芯が円柱状に伸びてまるで松かさのように見えることから名づけられた。暑さに強く、真夏でも株が疲れることなく花を咲かせ、夏の花壇を鮮やかに彩る。

⑦ イクソラ・フケリ

アカネ科。マダガスカル原産。花色ははじめ白色で、後に黄色に変化する。細長い花筒の基部には蜜があり、受粉を行うマダガスカル固有のスズメガの仲間のみがその甘い蜜を吸うことができる。花は甘い香りがあり、特に午前中よく香る。

